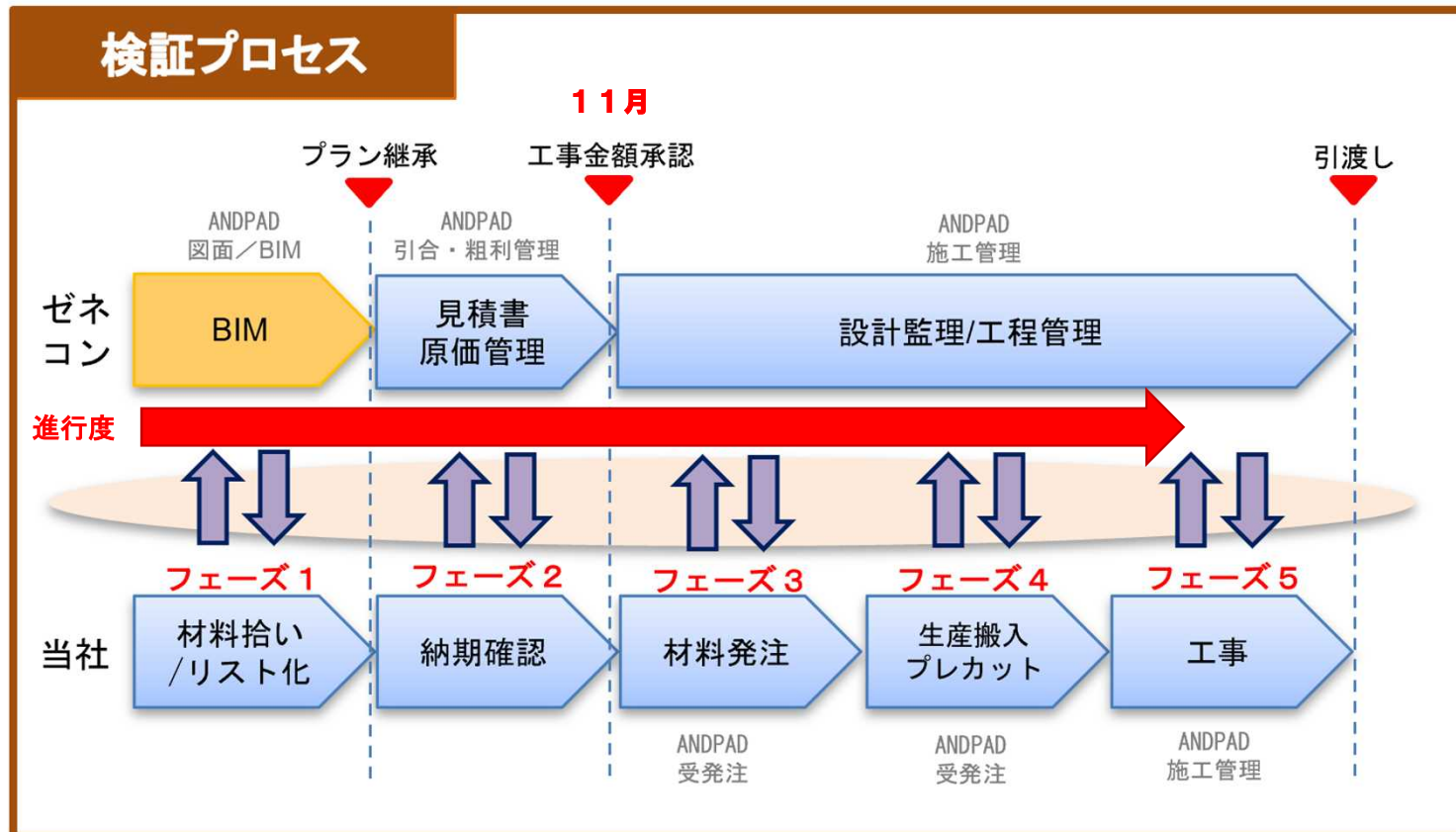


令和3年度 BIMを活用した建築生産・維持管理
プロセス円滑化モデル事業
(中小事業者 BIM試行型)
第2回中小型BIMモデル事業WG 発表資料



制作：新日本建工株式会社

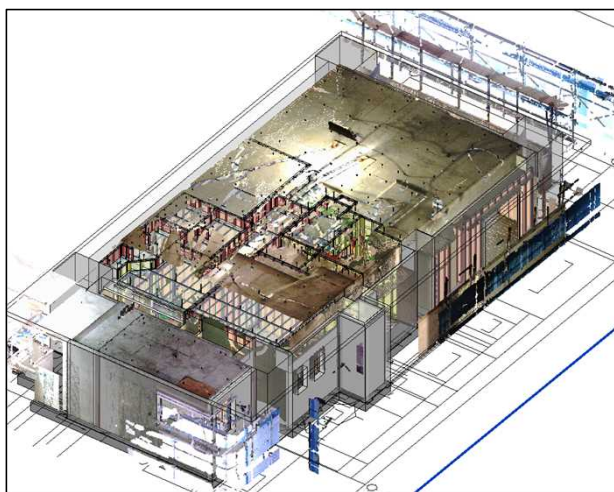
現状フェーズ：フェーズ5を進行中



成果報告：3Dスキャナー測定

当該現場1・2階において、3Dスキャナー測定を実施。

測定データから点群データを作成し、BIMモデルと合成することで、モデルの整合性、不陸誤差等を検証。



成果報告：3Dスキャナー測定

検証結果は下記の通りと評価する。

- ・ BIMモデルとの整合性…施工に影響する程の大きな差異は無し。
- ・ 不陸誤差の検証…3mm程度の誤差が観測されたが、プレカット施工
に対して、問題は無いと判断。

成果報告：課題に対してのBIM効果

- フェーズ4に関して

現在、プレカット材の発注が完了した状態。

プレカット材を活用した施工の開始が、1月末を予定しているため、

- ・ 材料置き場を事前決定することによる効果の検証
- ・ プレカット材施工による、現場施工の効率化の検証

上記2項目の検証は未実施となっている。

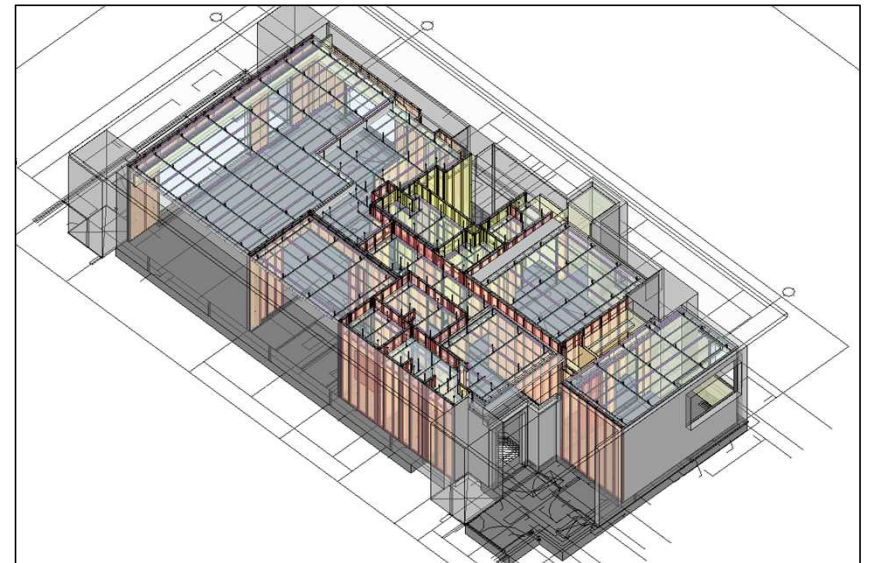
成果報告：課題に対してのBIM効果

- フェーズ4に関して

プレカット材の施工計画図書として、
BIMモデル上に配置した軽鉄下地材モデル
に対し、カット長さごとに色分け。

例：スタット長さ $l = 2670$ は赤、
 $l = 2740$ は黄で示す。

この色分けを、BIMモデル・平面図と
リンクさせ、職人と共有することで、
現場施工の効率化が可能か、検証を行う。



今後のフェーズ進行：フェーズ5へ向けて

- プレカット材による生産性への効果・課題の検証
検証する効果の項目として、
 - ・ プレカット搬入時に、搬入計画をBIMデータを基に立案。
材料置き場を事前決定することによる効果を検証。
 - ・ プレカット材施工による、現場施工の効率化効果を検証。
- 施工計画、図書を作成し、工程管理における効果と課題の検証
検証する効果の項目として、
 - ・ プレカット材の計画図書作成による、作業のし易さ、
明確性の検証、改善を検証。